

分類：薬剤分科会 C-13 薬薬連携 ポスター発表

演題：トレーシングレポートの活用状況調査（17 文字/60 文字）

兵庫県立丹波医療センター 薬剤部

福永圭佑、南のどか、古川直登、中山奈美、松本敏明、柴田直子、瀬川和子、横田聖子

【目的】当院は丹波地域の中核病院であり、地域医療のシステム構築のため、近隣医療機関、保険薬局、介護施設等との連携強化を図っている。その一環として、令和 2 年 11 月から保険薬局との情報連携強化のために服薬情報提供書（以下トレーシングレポート）の運用を開始した。今回、当院のトレーシングレポートの運用方法を紹介するとともに、現在までの活用状況について調査し、課題について検討したので報告する。

【方法】令和 2 年 11 月運用開始時から令和 3 年 5 月までの 6 ヶ月間に提出されたトレーシングレポートについて、薬局からの報告及び当院の対応状況（薬局への指示、処方変更等）を調査した。なお、疑義照会に該当する報告は除外した。

【結果】トレーシングレポートの報告件数は 24 件であった。報告内容の内訳は、副作用・体調変化に関する報告 10 件（41.7%）が最も多く、アドヒアランスに関する報告 7 件（29.1%）、重複投与に関する報告 3 件（12.5%）、薬剤の手技説明の実施に関する報告が 3 件（12.5%）であった。トレーシングレポートに対する当院の対応状況について、医師への問い合わせ及び保険薬局への回答は 14 件が当日中に実施され、回答に要する平均日数は 0.96 日であった。次回以降に処方変更すると回答した 7 件のうち、実際に変更されたのは 5 件、変更なし 1 件、未受診 1 件であった。

【結論】トレーシングレポートでは、様々な報告があったが、特にアドヒアランスに関する情報や、副作用・体調変化に関する情報が多く外来診療に活用されており、副作用等の早期対応につながっていると考えられる。トレーシングレポートを活用することで、従来の疑義照会では難しかった比較的軽微な内容の報告体制を確立でき、より保険薬局との連携を図れるようになったと言える。

しかし、トレーシングレポートは疑義照会のような即時性を求めているため、処方変更が次回診察時での対応となる。そのため、処方変更忘れが発生しており、情報が十分活用されていないケースも見られることから、院内のトレーシングレポート情報に対する連絡体制を見直す。更に、研修会等を通じて、トレーシングレポート事例を紹介していく等、活用促進のための啓蒙を図り、地域薬局との連携強化に努めていく。（905 文字/1000 文字）